



LINUS System

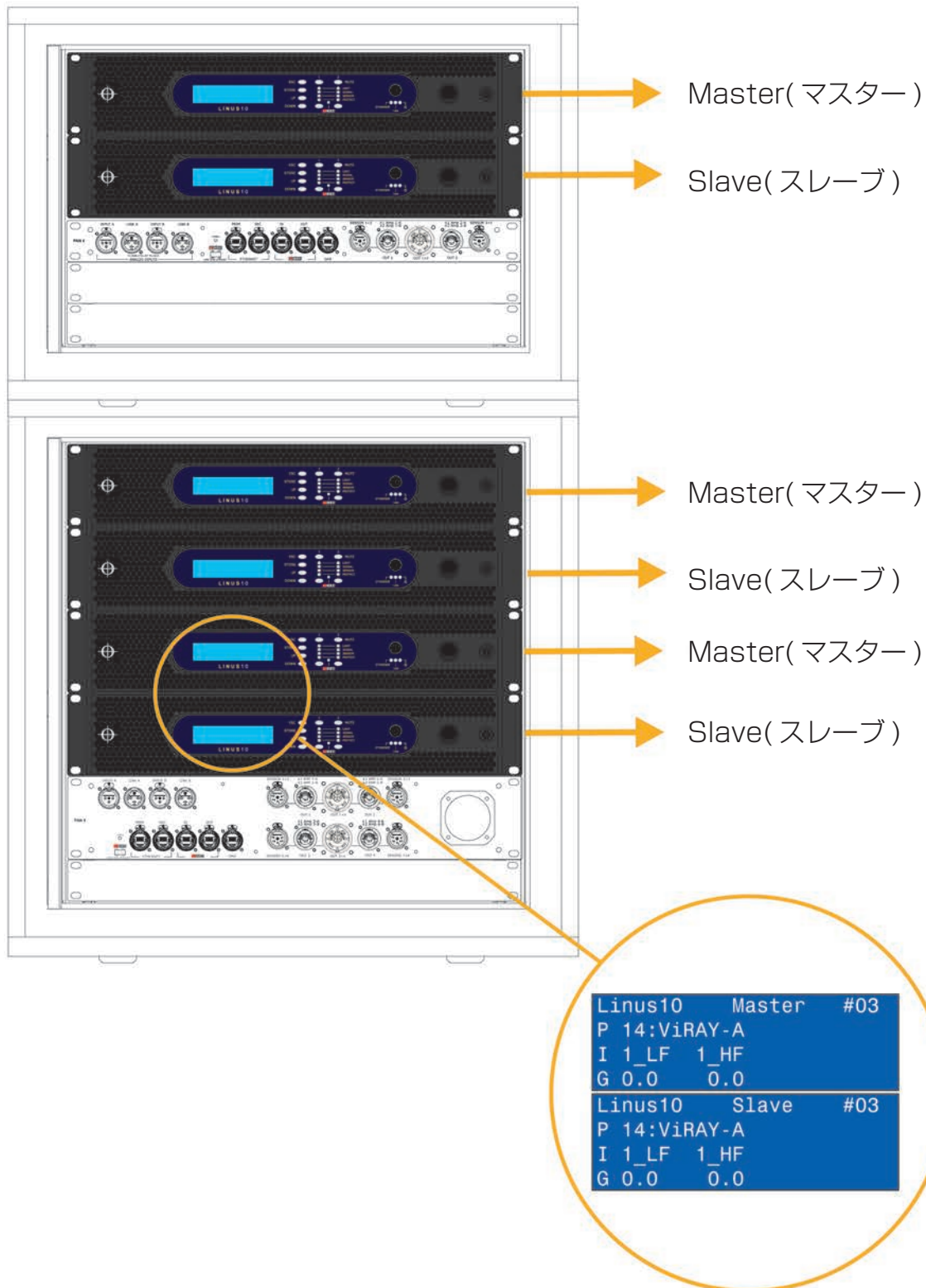
クイックスタートガイド

LINUS LIVE V1.2.2 Beta
2017/7/28

1. LINUS Rack 20/40 内の Master(マスター) / Slave(スレーブ) 構成を確認します。

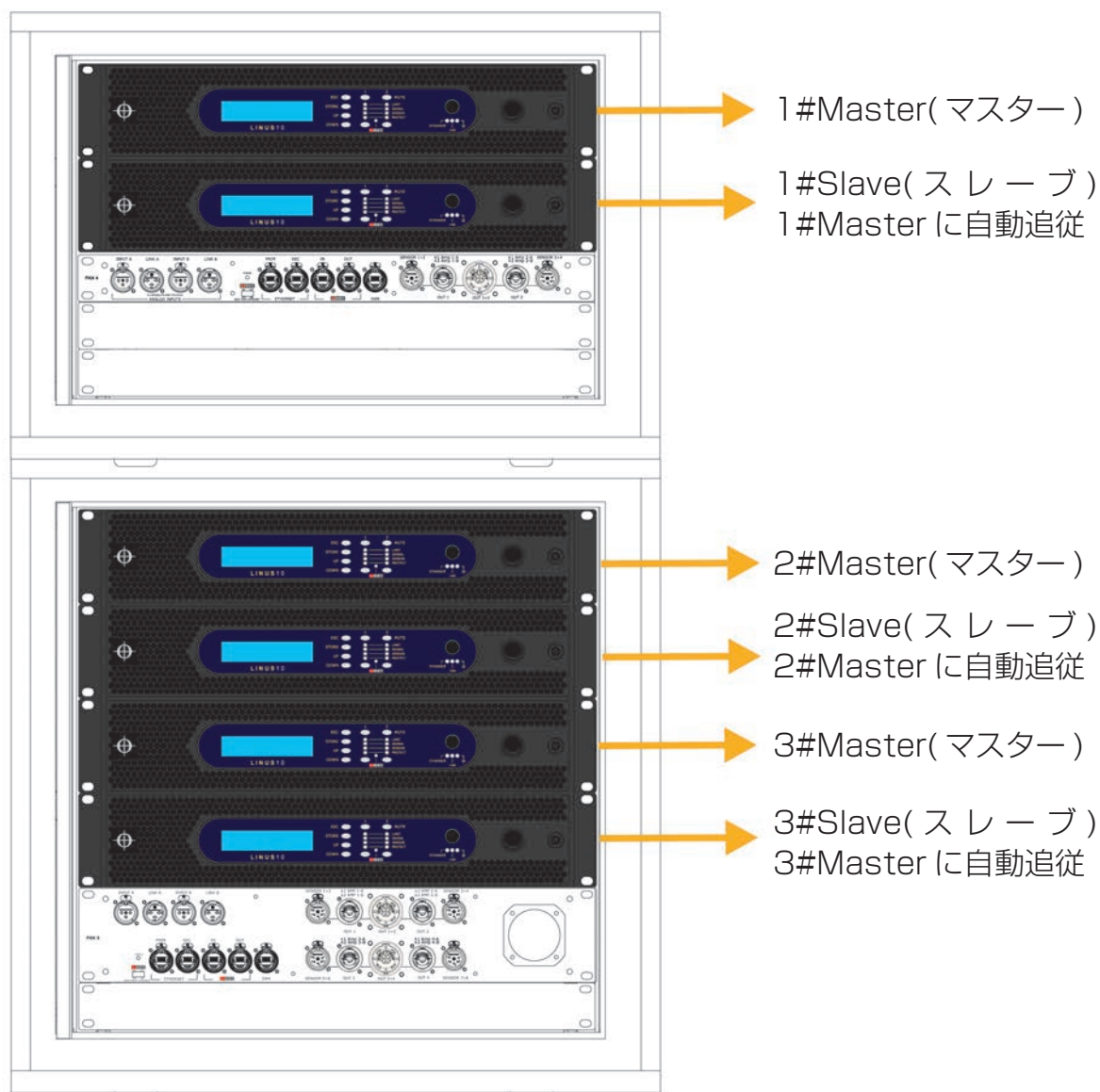


ラックの構成は、前面パネルにケーブルを接続する前に行ってください。





2. モジュール番号の割り当て



マスターユニットでモジュール番号を選択し、ロータリーエンコーダーを押して実行すると、マスターユニットは機器スキャンを開始します。スキャンが終了すると、「Device Found 1」（これがスレーブユニットです）というメッセージが表示されます。スレーブユニットはマスターユニットに自動で追従します。

ユニットのディスプレイの最後のページで IP アドレスを再確認します。

モジュール #1 の例 - マスター：xxx.xxx.xx.01 /スレーブ：xxx.xxx.xx.02

モジュール #2 の例 - マスター：xxx.xxx.xx.11 /スレーブ：xxx.xxx.xx.12

ラック全体の電源をいったん切り（電源スイッチを OFF にしてから電源ケーブルの 1 次側プラグも抜いてください）、5 分間待ってから電源を入れなおします。Master(マスター) / Slave(スレーブ) の IP アドレスが正しい順序になっていない場合は、モジュール番号の割り当てを繰り返します。





1. ネットワーク構成の設定

イーサネットケーブルでラックを接続します（PRIM/ SEC 端子）。

下の例はデジチェーン接続の場合です。4ラック程度までのシステムで便利です。
よりラック数の多いシステムでは、スイッチハブを使って各ラックへスター接続して
ご使用ください。

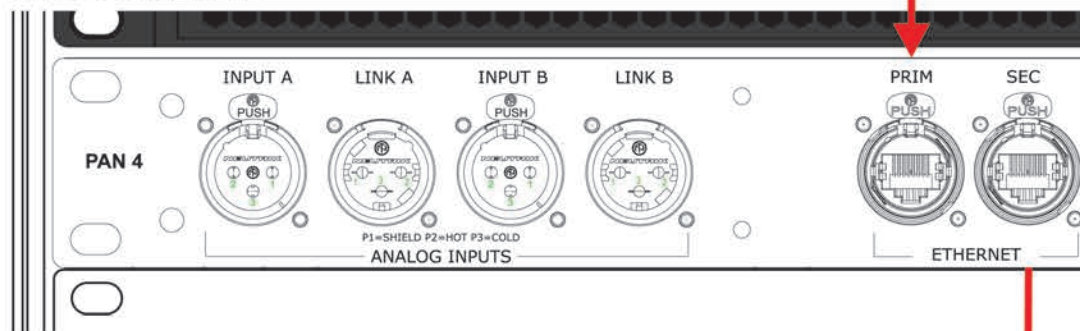
スタティック IP を設定：

IP : 192.168.1.20

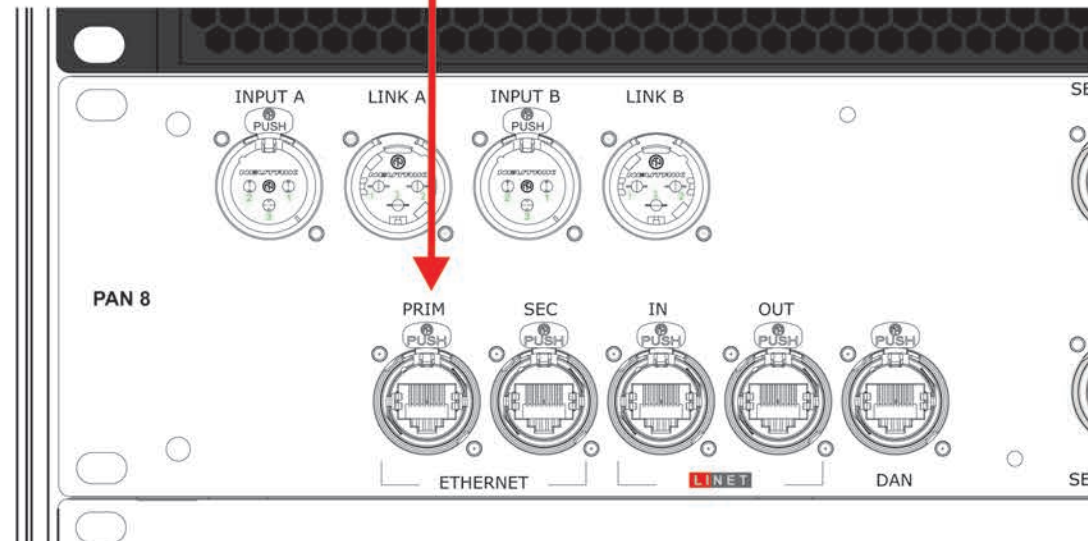
SN : 255.255.0.0



LINUS Rack 20



LINUS Rack 40





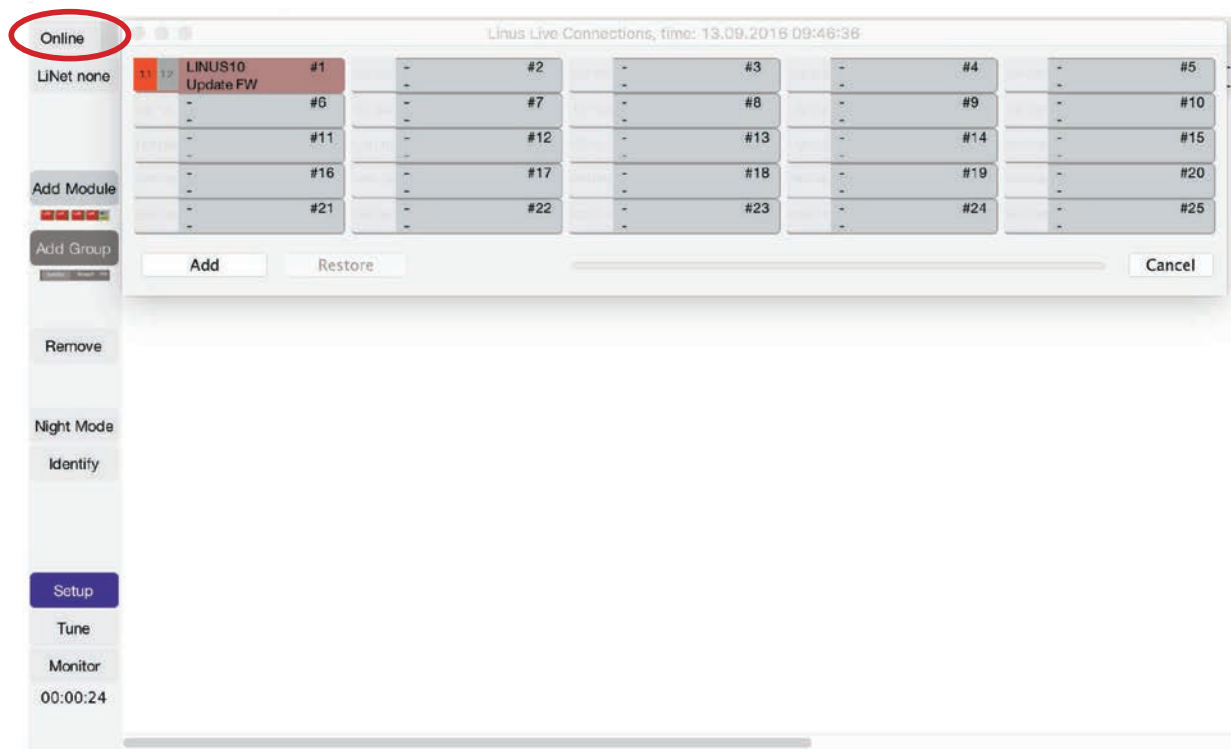
2. ネットワークのスキャン

LINUS Live を起動し、このボタンを押します。



Online

機器スキャンプロセスが始まります。



ネットワーク上の使用可能なユニットが表示されます。

スキャン結果がハードウェアと一致しない場合、機器とネットワークのセットアップを再度確認してください。

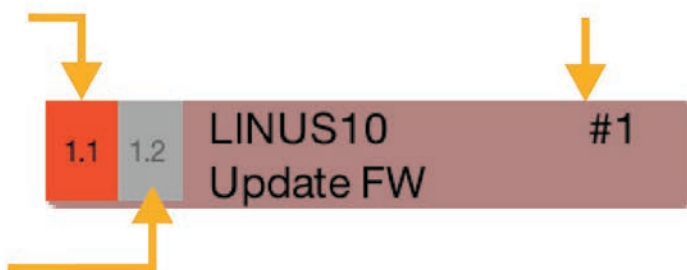
マスター

IP:XXX.XX.XX.01

モジュールナンバー (#1)

スレーブ

IP:XXX.XX.XX.02



この例は機器を初めて接続した場合を示しています。

LINUS Live ソフトウェアには新しいファームウェアバージョンのデータが含まれています。





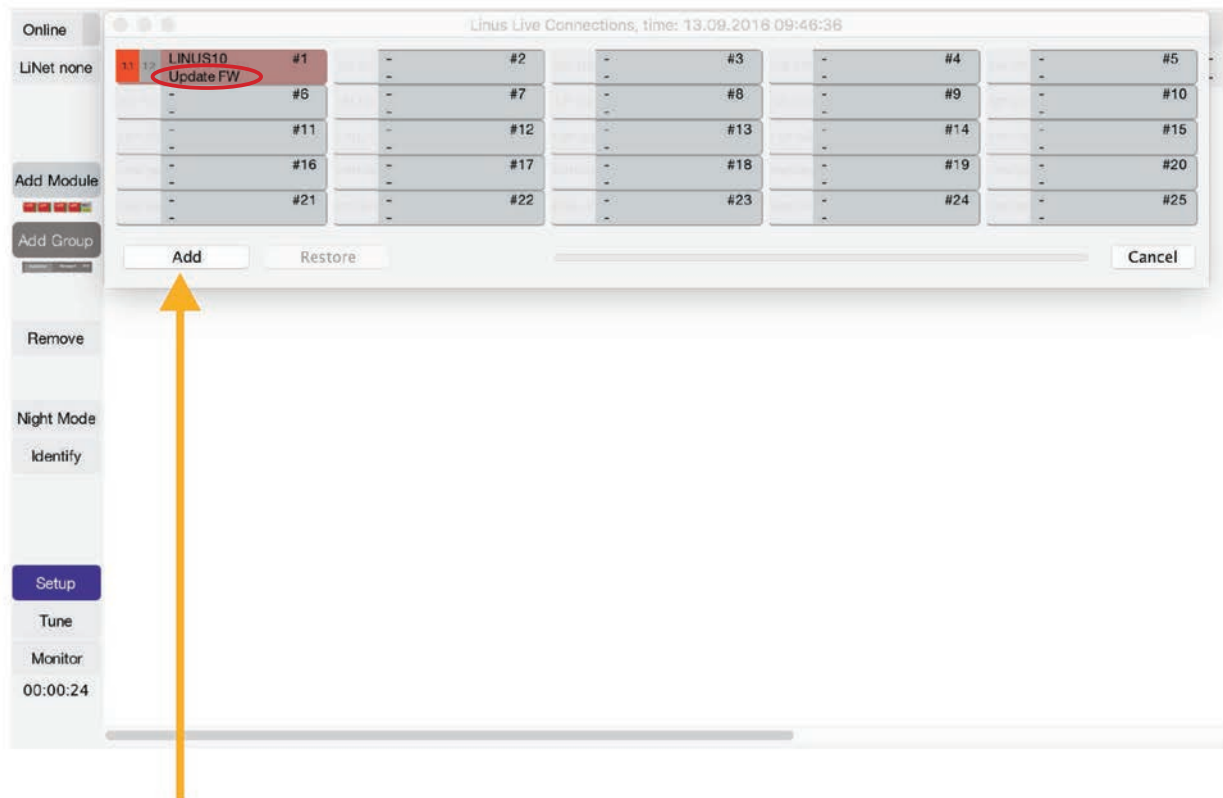
1. ネットワーク／アップデートのスキャン

LINUS Live を起動し、このボタンを押します。



Online

機器スキャンプロセスウィンドウは、新しいファームウェアがあることを知らせます。



ここで、接続された機器のファームウェアをアップロードする必要があります。

「Add」ボタンを押して全てのモジュールをセットアップスペースに追加します（次のページのステップ 2）。

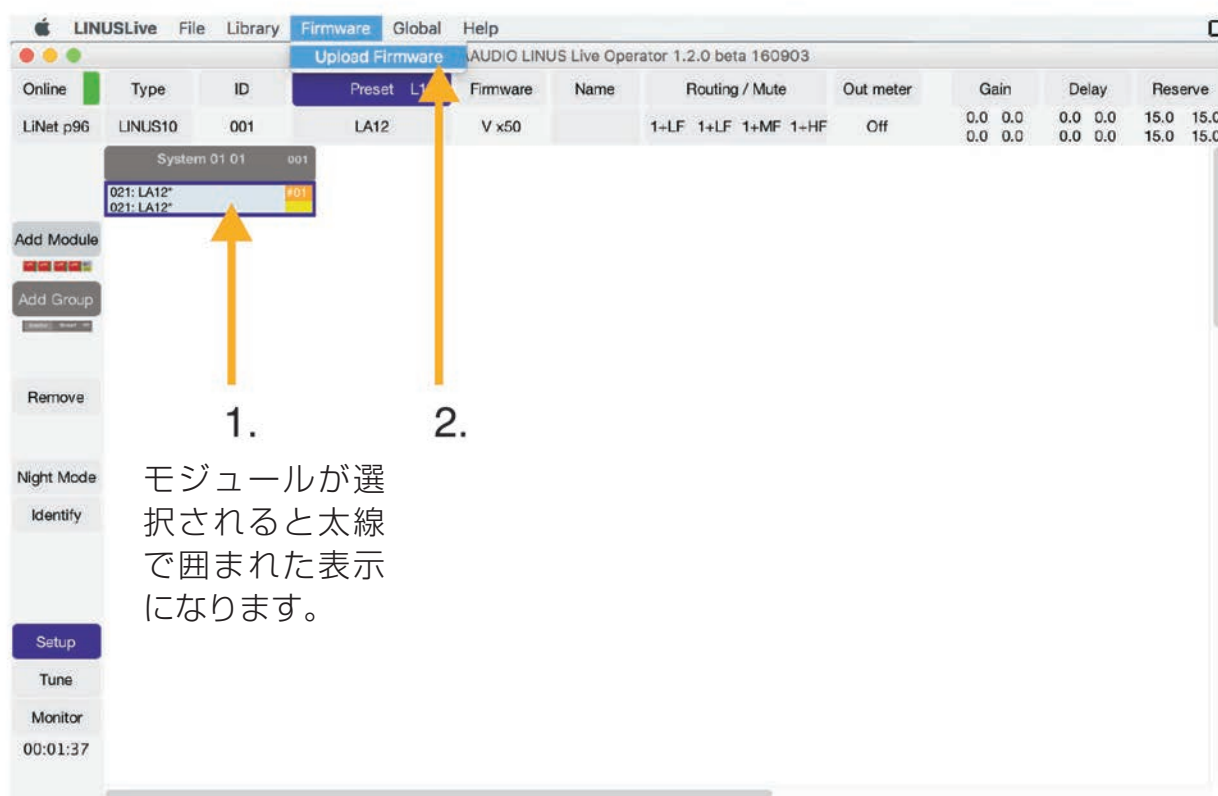




2. ファームウェアのアップデート

LINUS アンプ、LINUS CON 本体へのファームウェアです。プリセットライブラリーへのデータは別に存在します。

- (同じタイプの)モジュールを全て選択します。左クリックか左クリックしたままカーソルを通過させると選択されます。
- メニューの「Firmware」から「Upload Firmware」を押します。



ファームウェアのアップロードが完了するまで待ちます。

ファームウェアアップデートが完了すると自動的に LINUS Live が閉じ、LINUS 10 が再起動します。

※注意

一度にアップデートできる LINUS10 ユニットは 8 台 (LINUS RACK 40 (4モジュール) × 2基相当) までです。





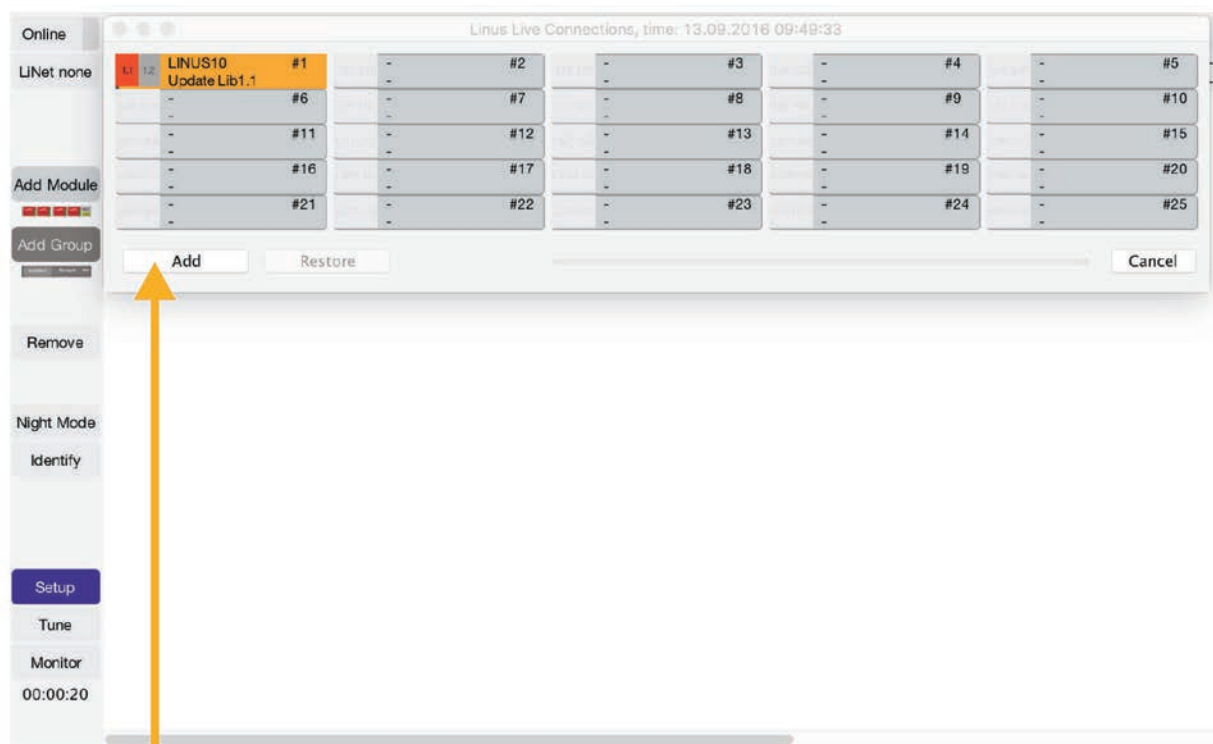
3. ネットワーク／アップデートのスキャン

LINUS Live を起動し、このボタンを押します。



Online

機器スキャンプロセスウィンドウは、認識された機器の（Linux Live 内にある）新しいプリセットライブラリーがあることを知らせます。



ここで、接続された機器のプリセットライブラリー（CODA スピーカー全製品のプリセットデーター）をアップロードする必要があります。

「Add」ボタンを押して全てのモジュールをセットアップスペースに追加します（次のページのステップ 4）。

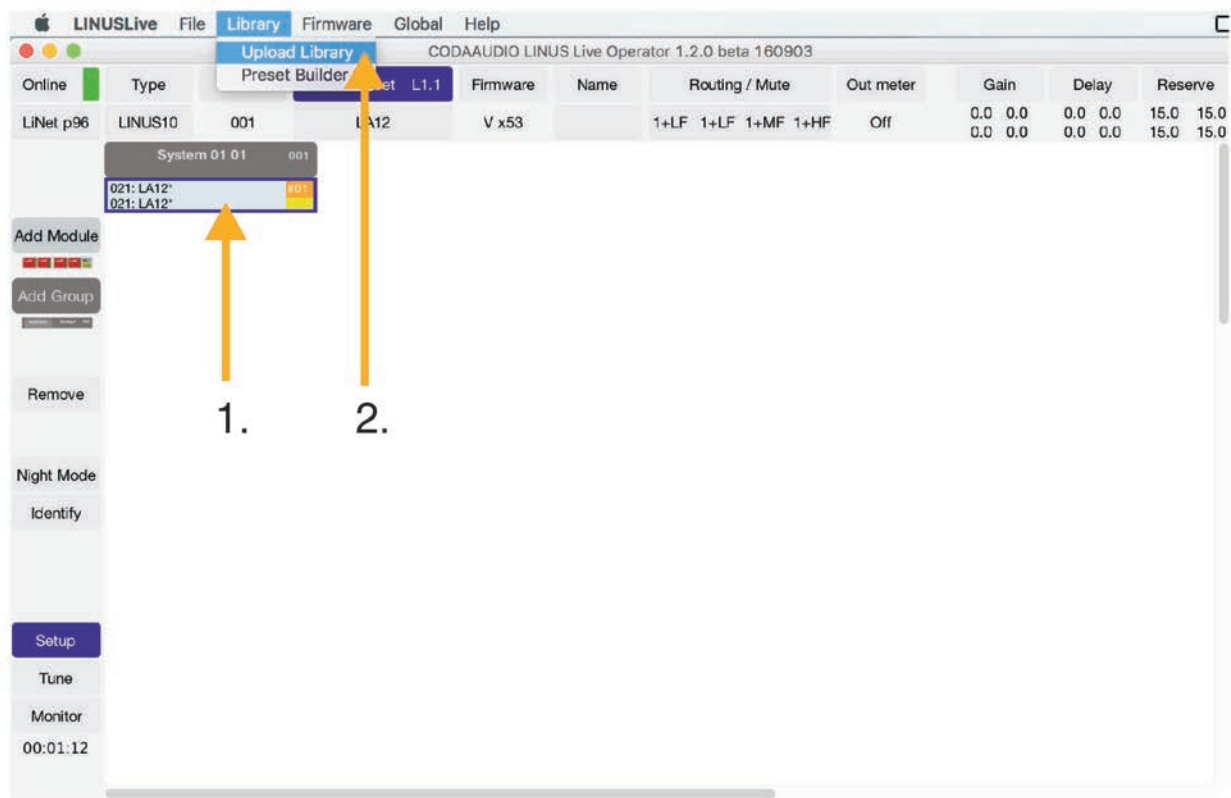




4. プリセットライブラリーのアップデート

※「プリセットライブラリー」とは、CODA スピーカー全製品のプリセットデータターです。

- (同じタイプの) モジュールを全て選択します。
- 「Library」 → 「Upload Library」 を押します。



ライブラリーのアップロードが完了するまで待ちます。

ライブラリーのアップデートが完了すると LINUS Live は自動的に閉じます。





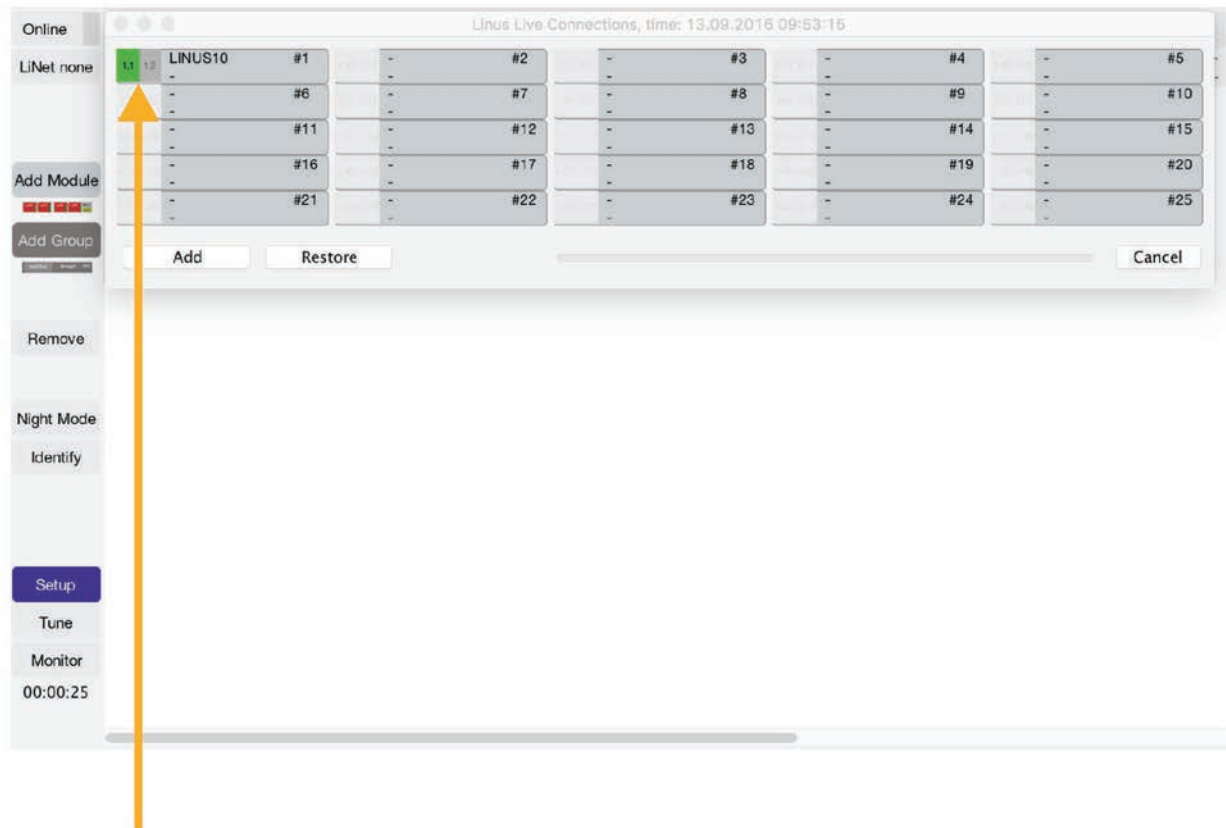
5. アップデート後の環境

LINUS Live を起動し、このボタンを押します。



Online

機器スキャンプロセスウィンドウは、アップデート後の機器環境について知らせます。



これで、LINUS Live の操作を開始できる状態になりました。

詳細は LINUS の取扱説明書を参照してください。





1. ネットワーク／アップデートのスキャン

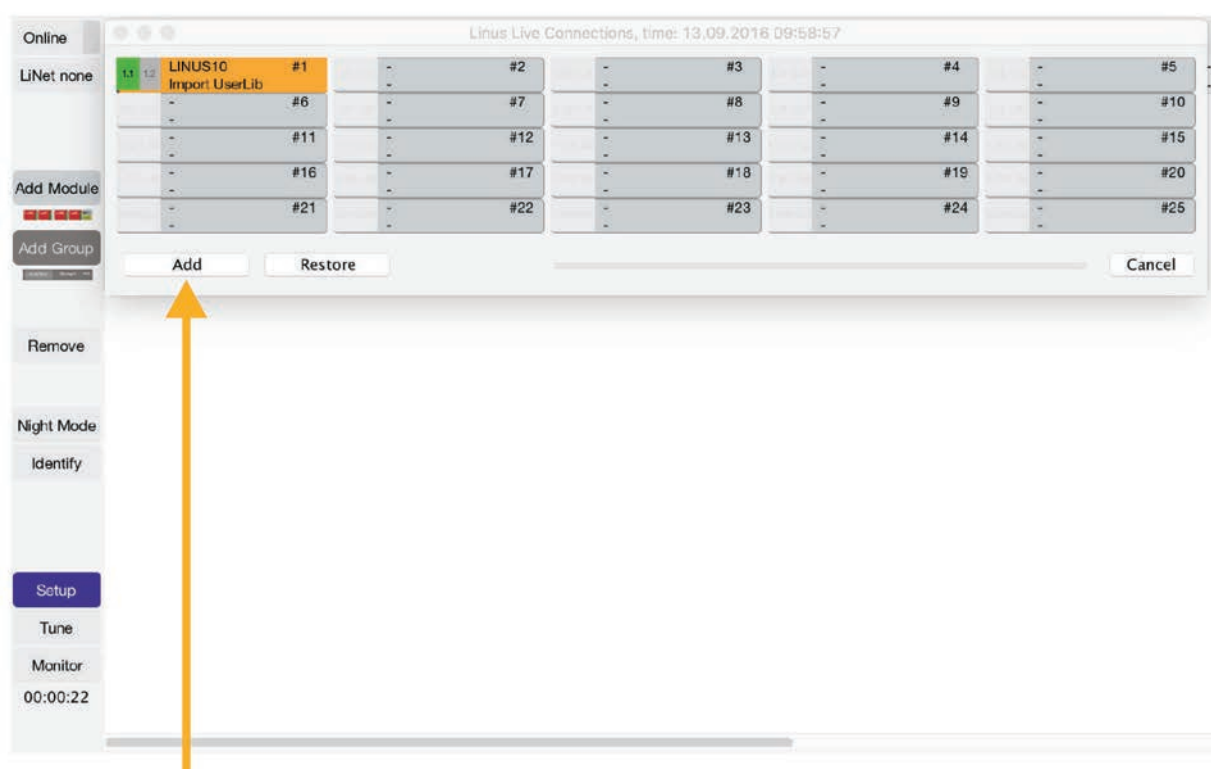
LINUS Live を起動し、このボタンを押します。



Online

LINUS Live に搭載されている Preset Builder(プリセットビルダー)アプリケーションで新しいカスタムプリセットを作成した後、システム内の全ての機器にプリセットライブラリーをアップロードする必要があります。

機器スキャンプロセスウィンドウは、ネットワーク上で認識された機器のユーザーライブラリーに相違があることを知らせます。



ここで、接続された機器のプリセットライブラリーをアップロードする必要があります。「Add」ボタンを押して全てのモジュールをセットアップスペースに追加します（9ページのステップ9を参照）。

Preset Builder(プリセットビルダー)アプリケーションの詳細は Preset Builder(プリセットビルダー)の取扱説明書を参照してください。





2. Preset Builder ライブラリーのエクスポート／インポート

Preset Builder(プリセットビルダー) でユーザーライブラリーを保存し、LINUS Live を閉じると、新しい「Key(キー)」ファイルが自動的に生成されます。

変更を適用した場合、新しい「Key(キー)」ファイルが生成されます。

Key(キー) ファイルには、プリセットおよびスピーカーに関する必要な情報が全て含まれています (Key(キー) ファイルの例 : PresetLib 1.2 key1450245279632.zip)。

モジュール、システムセットアップファイル、および LINUS Live が同じキーファイルに基づいて動作している必要があります。

※注意

各ユニット (LINUS10、LINUS 10C、LINUS 5C、LINUS Con) において必要な各ユーザープリセットライブラリーを機種ごとに作成し、各ユニット別に一度にアップロードすることをお勧めします。

Key(キー) ファイルは以下のディレクトリーの中にあります。

Windows :

C:\Users\xxx\LINUS Presets

Mac:

/Users/xxx/LINUS Presets

Export(エクスポート)

- 生成された Key(キー) キーファイルをターゲットコンピューターにコピー／ペーストします。

Import(インポート)

- Preset Builder(プリセットビルダー) のキーインポート機能を使用します。

7. Store Userbank

Default Userbank

Import Userbank



※重要

Key(キー) ファイルをインポートし、システム内の全てのユニットにアップロードした後は、LINUS Live ソフトウェアを再起動してください。





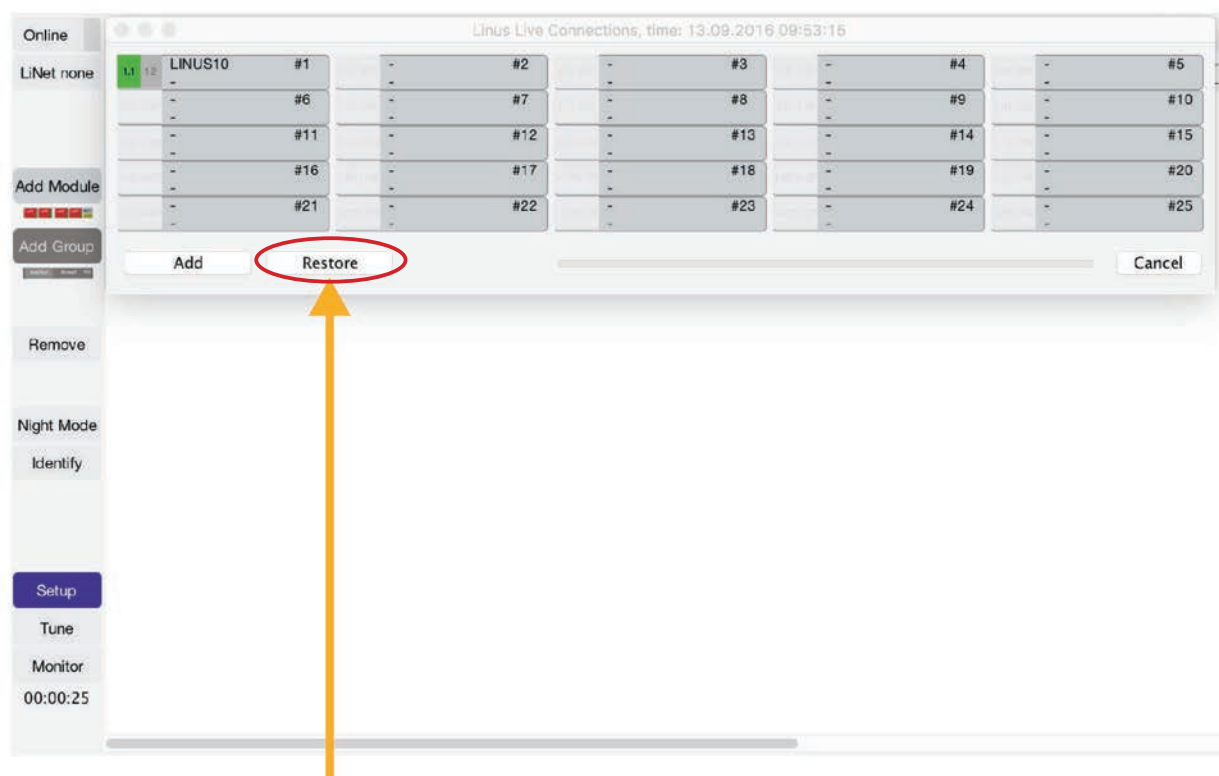
1. 同じコンピューター上でのシステムの Restore(復元)

システムをオンラインで設計した場合、パラメーターまたはシステム構成を変更していなければ、いつでも同じコンピューター上でシステムを Restore(復元) できます（例: ネットワークの切断や意図しない電源のシャットダウンなどの場合）。

LINUS Live を起動し、このボタンを押します。



Online



設定された構成が変更されていない場合は、システムセットアップを復元できます。

(参考)

Restore(復元) は、各 LINUS 機器内に保存されたデータをコンピューター側へロードさせています。





2. 別のコンピューター上でのシステムの復元（システムはそのままコンピューターのみを交換する場合）

システムセットアップを作成したコンピューターからプリセットライブラリーキーをインポートする必要があります。

手順は 12 ページのインポート機能を参照してください。

7. Store Userbank

Default Userbank

Import Userbank



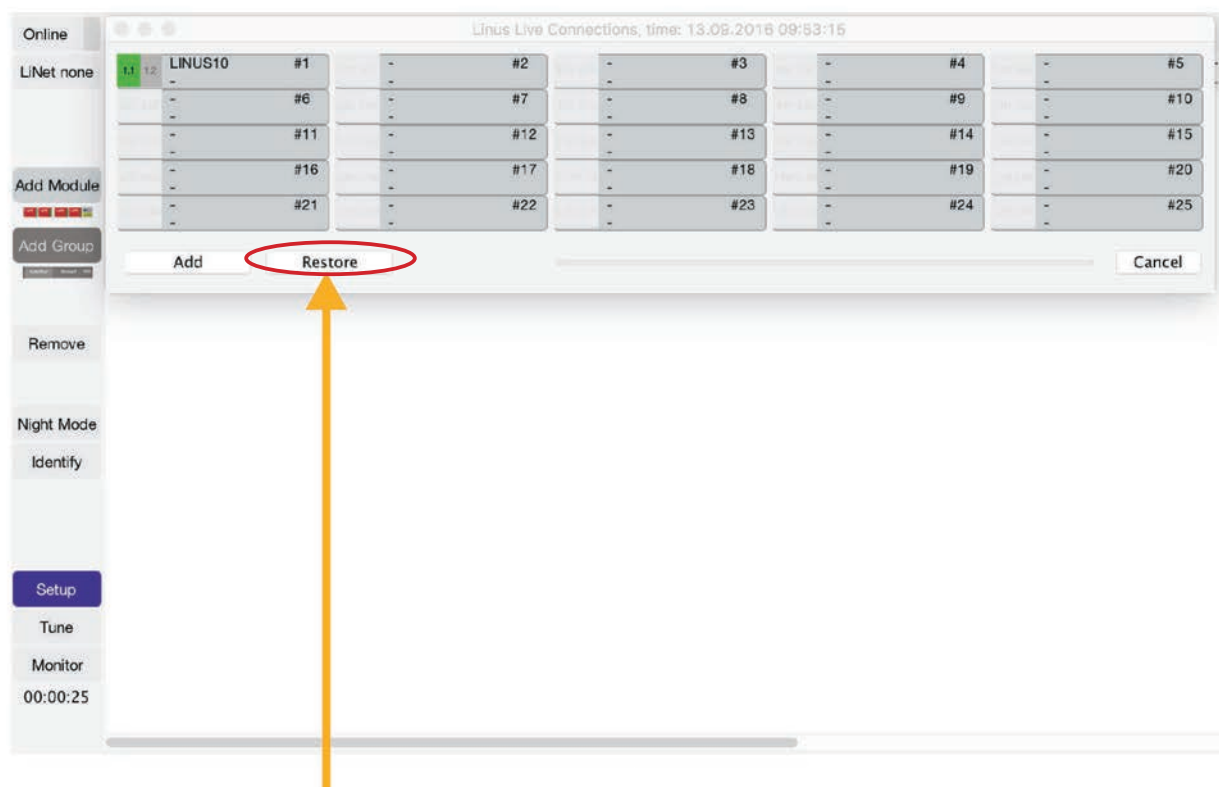
※重要

Ket(キー) キーファイルのインポート後は LINUS Live ソフトウェアを再起動してください。

LINUS Live を起動し、このボタンを押します。



Online



これで、別のコンピューター上でシステムセットアップを復元できます。





3. 結論として

LINUS のリモートシステムは、コンピューターと LINUS ハードウェアの両方で同じキーファイルが使用されていないと同期しません。

